

国道236号「天馬街道」が全面開通

27年の歳月を経て、 帯広～浦河間がつながる

去る9月25日、国道236号の未開通区間であった上杵臼道路（約12.2km）が完成し、国道236号が全面開通しました。着工から27年の歳月を経ての完成です。



北海道開発局 室蘭開発建設部
様似道路建設事業所 副長

鈴木 勝美

一般国道236号は帯広を起点に、十勝南部の中札内村、大樹町、広尾町などを經由して、北海道の背稜である日高山脈を越えて浦河町を終点とする、総延長138.9kmの国道です。開通にあたって「日高のサラブレッドと十勝のドサンコが出会い、ともに空高く舞う」というイメージから「天馬街道」と命名されました。

国道236号の歴史は古く、明治35年に浦河町蛸崎清彦氏ほか有志が踏査を行いました。大正12年には広尾町の住民によって踏査が行われています。昭和の時代を迎えると、まず昭和7年に浦河町長ほか12名が踏査し、昭和9年には鉄道省工務局が鉄道敷設のため実施測量をしたところ、敷設可能と判断したものの、満州事変のために中止となってしまいました。戦後は、昭和26年浦河町と大樹町の関係者が踏査。北海道開発局開発調査課が経済効果調査に着手したのが、昭和28年のことです。翌年の昭和29年には北海道開発局開発調査課ほか踏査。北海道開発局は事業実施のため、昭和41年4月に路線および経済効果調査を開始し、翌年の昭和42年9月に土木試験所ほか計画線調査をしています。

昭和45年9月に一般道道浦河大樹線改築事業として帯広側から工事に着手。その後、主要道道となり、昭和57年4月に国道へと昇格しました。

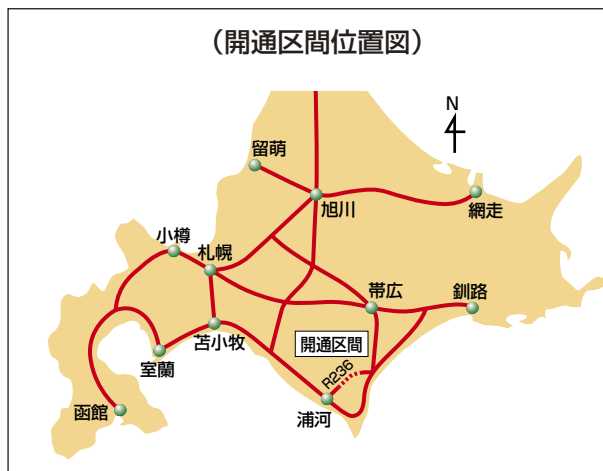
日高山脈を貫く野塚トンネル

上杵臼道路は険しい山並みが連なる日高山脈にかかるため、この道路建設では標高1,200～1,500mの日高山脈の中央背稜部をトンネルで貫いています。室蘭開発建設部様似道路建設事業所は「一般道道浦河大樹線浦河町地内上杵臼道路新設外一連工事」として、昭和49年にこの事業をスタートしました。

日高側で地形条件が厳しくなるのは、野塚トンネル坑口から約3.0kmの間で、野塚トンネルはもちろんのこと、橋梁5カ所、覆道3カ所があります。昭和54年に本格的に掘削が開始された野塚トンネルは、日高山脈を横断し、12年の歳月をかけて平成2年8月に貫通。これに



野塚トンネル



より延長 4,232 m という北海道一の長大山岳道路トンネルが誕生しました。日高山脈襟裳国定公園内に位置することから、自然環境にも十分配慮がなされています。

黄金道路に比べて約 30km、約 50 分の短縮が可能に

これまで、帯広市～浦河町間は黄金道路の名前で親しまれている国道 336 号を、唯一のルートとしていました。今回全面開通した国道 236 号を利用することで、国道 336 号から比べると距離で約 30km、時間で約 50 分短縮できます。

さらに、道央と道東を結ぶ幹線道路として、日勝峠を通る国道 274 号がありますが、国道 236 号の全面開通は日高山脈を越える新しいルートとして期待されています。

また、釧路～室蘭・苫小牧間は年間 100 万トン以上の自動車による貨物輸送があり、走行距離や走行時間では両ルートとも大差はありませんが、都市部の通過は国道 236 号のほうが少なくなります。

峠越えという視点から見ると、峠の標高は日勝峠が 1,022m、国道 236 号が 585m で約 400m 以上も低くなることから、ドライバーの負担や燃費が軽減できると考えられています。冬期間は安全性の高い代替ルートとして国道 236 号を利用することも可能となります。

道路情報、非常施設も完備した充実の新ルート

ドライバーにとって道路情報は欠かせません。そのため浦河市街から約 30km のところに、上杵臼道路情報ターミナルが設置されています。このターミナルには、気象や道路規制等のお知らせ、野塚トンネルの防災の仕組み、避難誘導についての情報提供等があります。

このほか、野塚トンネル内には事故が発生した場合にそなえて、押しボタン式通報装置や非常電話、消火器、火災検知器、トンネル内での方向転回所などの非常用施設のほか、日高側坑口附近には電話ボックスを設置しています。さらに、トンネル内ではラジオ受信も可能です。



上杵臼道路情報ターミナル

冬期間の安全を確保するため、チェーン着脱場、除雪ステーションもあります。

馬横断注意の看板も登場

この道路は安全面において十分な配慮のもとに建設されているとはいえ、ドライバーのマナーも重要です。今回開通となった上杵臼道路は、橋梁、トンネル、覆道等の構造物が多く、急カーブ、急勾配が多い山岳道路です。平面線形（曲線半径等）、縦断線形（勾配等）を検討し、できるだけ緩い縦断線形、大きい曲線半径で設計、施工していますが、いかんせん山岳道路。急カーブや急勾配を避けることのできなかった箇所もあります。そのため、室蘭開発建設部様似道路建設事業所をはじめ各関係機関は、ドライバーに安全運転を呼びかけています。

また、競走馬の産地であることから、道路の両側には牧場が隣接していて、「馬横断注意」の看板も設置されました。キツネや鹿の看板は道内のいたるところで見ることができますが、馬というのは日高ならではの看板です。



十勝と日高を結ぶ待ちに待った道路が開通しました。これは地域と地域だけにかぎらず、道央圏と道東圏をより安全に、豊かに、そして経済的に結ぶという大きな役割を担っています。

帯広市には帯広空港があり、広尾町には首都圏との定期フェリーが就航しています。そして浦河は日高管内の中心。十勝も日高も観光資源に恵まれ、モノや人の移動が今後ますます活発化し、その波及効果が期待されています。



手前上杵臼大橋、後方野塚トンネル坑口